

# 失ったものをかぞえるな 残ったものを生かそう

JA長野厚生連鹿教湯三才山病院の玄関脇に「失ったものをかぞえるな、残ったものを生かそう」と書かれた碑石が置いてある。この病院の前身は長野県医師会立奥鹿教湯温泉病院であった。谷間を整地して病院が建てられたが、そのとき大きな岩石がごろごろ掘り出された。昭和40（1965）年の開院を記念して、一つの石に碑文が刻み込まれた。

碑文はパラリンピックの創始者Sir Ludwig Guttman先生の言葉である。リハビリテーション専門病院をめざした奥鹿教湯温泉病院の基本理念として選択された。リハビリテーションの日本語訳が決定しないまま、1963年に日本リハビリテーション医学会が発足した。「リハビリテーションとは何か？」が混沌としていた時代に、分かりやすい理念を掲げられた病院開設当初の関係者に敬意を表する。厚生連鹿教湯三才山病院となった現在でも、患者指導の重要な言葉として利用させて頂いている。



鹿教湯三才山病院玄関わきの碑石

Guttman先生は1899年、ポーランドに生まれた。ワルシャワのJewish Hospitalの神経外科医であったが、ナチスのユダヤ人迫害を逃れて英国に移住した。1944年にロンドン郊外のStoke-Mandevilleにある脊髄損傷センター長に迎えられた。1948年に第1回 Stoke Mandeville Games（身体障害者スポーツ競技会）を開始し、1952年に国際化された。1956年メルボルンオリンピックのときから国際オリンピック委員会で承認された。1960年ローマオリンピックからパラリンピックと呼ばれるようになった。英国王室からSirの称号を与えられ、1980年に没した。